



山桜会の活力を母校の 教育改革支援に生かそう!

～山桜会創立90周年～

学院創立120周年記念事業を成功させよう～

会長 川原 俊 明

はじめに

満開の桜が、日本全国に広がっています。

追手門学院では、咲き誇った桜のもとで、順次、小・中・高の入学式が挙行されました。

入学式の各式場には、昨年度、山桜会から謹呈させていただいた「入学おめでとう」の横断幕が掲げられていました。新入生や御父兄が、この横断幕をバックに記念写真を撮られる光景が見受けられ、うれしく思いました。

少子化が叫ばれる中、定員を上回る新入生を確保している追手門学院小・中・高の健闘ぶりが目立ちます。

私たち山桜会は、卒業生同士の親睦活動を重視しながらも、母校・追手門学院に対する教育改革支援という大きな目標を掲げ、それに向かって積極的に活動を進めてまいりました。

山桜会の教育改革支援活動が、少しでも先生方、生徒の心意気に影響を与えることができれば、これほど嬉しいものはありません。

学院創立120周年を前にして、追手門学院の伝統を維持し、母校のさらなる隆盛のために、卒業生としてなすべきことは何か。

この観点から、私達は、山桜会を運営し、さらには学校法人の理事会や評議員会においても、卒業生としての立場から、よりよき母校の建設のため、改善策を主張し続けています。

山桜会活動の強化対策・委員会再編

山桜会の掲げる教育改革支援策を具体化するのが、委員会活動です。

評議員のみなさまには、全員、いずれかの委員会に所属していただくようお願いした経緯もあり、この一年間、私達も頭が下がるくらい、実に活発な委員会活動が行われ、数々の成果を上げてきました。

オール追手門を地で行く数百人規模の山桜会新年会、参加者100名を超える山桜会チャリティゴルフコンペ、多くの一般会員を巻き込んだ女性部会主催の講演会、各学校PTAとともに参加するスポーツ大会や連合後援会への支援など、各委員会で練り上げた活動成果が見事に花を開かれています。

2期2年目の今年、私たちは、さらに意欲を出すことにしました。

各委員会の活動成果を、委員会だけのものに終わらせず、山桜会全体に浸透させたい。その手段として、委員会再編を実行することにしました。

従来からの委員会の殻を、一旦は破壊したうえで、もう一度再編することにより、委員会同士の連携をより緊密にしたい、と考えたのです。

失敗してもいい。間違っていたら、やり直せばいい。

私たちは、こんな気持ちで、思い切った委員会組織の再編に取り組むことにしました。

委員長会議を復活させる。ジュニア部会を委員会に昇格させ、本格的な次世代山桜会執行部を育てていく。母校に対する教育支援活動と渉外活動を一体化して、母校との連携を強化する。文化活動にも力を注いで、多くの会員のみなさんが参加しやすい体制を築く。

これらの大事業を、山桜会会員の皆さんと力を合わせて実現し、その成果を会員の皆さんとともに享受する。この目的達成のため、山桜会の委員会組織に大改革のメスを入れたのです。会員のみなさまには、ぜひともご理解とご支援をお願いしたいと思います。

委員会再編に伴い、新たに藤村敬(小79期)副会長を選任し、執行部の強化も図りました。

来年は、山桜会創立90年

今まで、山桜会は、自らの過去を振り返ることなく、常に前進あるのみ、とばかり邁進してまいりました。しかしながら、今の山桜会は、先輩たちの活動の蓄積があったからこそ、将来に向けて前進できるのです。

気がつけば、来年の2006年は、山桜会創立90周年にあたります。

私の恩師であり、山桜会の生き字引とも言われる酒井良之助先生によれば、追手門学院の前身・大阪偕行社附属小学校に赴任された片桐武一郎校長先生が、学校の教育改革とともに、同窓会組織の結成に大変尽力されたようです。

片桐校長赴任後の卒業生をもって組織された「桜会」結成の大正5年(1916年)1月30日をもって山桜会創設の時とされています。

この「山桜会報」の題字も、片桐校長の筆にかかるものです。

私達は、山桜会の伝統を引き継ぎ、さらに改革を加えて、歴史を刻んでいきたいと思っています。

秋山陽彦(小59・中2)副会長が、山桜会90周年記念事業実行委員長となり、来年の山桜会行事は、すべて「90周年記念」の冠をつけて実施します。また、山桜会として初めて実施する周年事業として、全学あげでの記念パーティを大々的に実施する予定です。みなさまもぜひご参加下さい。

学院創立120周年記念事業にご協力を

山桜会は、母校と共に歩みます。山桜会の90周年記念事業は、2008年に迎える学院創立120周年記念事業の、いわばプレ記念事業とも言えます。

山桜会の財産は、総数3万人におよぶ卒業生が、日本国内はもちろんのこと、世界各地で活躍されているところにあります。いわば人材の宝庫です。

いま、母校・追手門学院は、創立120周年記念事業の一環として、教育改革の推進とともに、全学的な校舎の建て替えを進めています。

いわば、ソフト・ハード両面からの改革を始めているのです。

すでに象徴的なことは、茨木・追手門学院中高が、土井校長のもとで先生方が一丸となって教育活動に力を注がれた結果、今年も、大阪府下でトップの入試倍率を誇ったことです。伝統に安住することなく、たえず自らを高めていく母校の姿勢が評価されています。

卒業生として、母校・追手門学院の繁栄に、ぜひともみなさまのご協力をお願いする次第です。